

サッカーの指導現場における暴力根絶に向けての指針/骨子

JFA技術委員会

日本サッカーが国際舞台で活躍するようになった今、サッカーに対する注目度はますます高まり、それに伴ってサッカーが果たす役割や社会的影響力も大きくなっています。選手の育成に携わる指導者の役割も重要になっており、指導者の皆さんにとっては責任も重く、同時にやり甲斐も大きなものになっているでしょう。

スポーツの本質は楽しむことです。誰もが目的やレベルに合わせてスポーツに親しむことで、達成感や充実感、生きがいを楽しめます。また、プレーヤーがフェアにひたむきに戦う姿は、観る者に勇気と希望、生きる活力を与えて

くれます。

未来を担う子どもたちや選手を育てる指導者は、日本のスポーツ発展の一翼を担っています。プレーヤーがサッカーを楽しみながらレベルアップしていくこと、彼らの向上心を高め、挑戦する姿勢を後押しすることが指導者に課せられた重要な使命なのです。失敗を恐れない、たくましい選手を育てるためには、時として厳しい指導も必要です。それ自体を否定するものではありませんが、その中に暴力的な指導や体罰は含まれません。我々が常に掲げてきた「Players First!」、そして「リスペクト」の精神をあらゆる取り組みの基盤とし、こ

れからも一層徹底していきます。サッカーの指導環境の改善に努め、その努力を惜しみません。そして、登録チームの全ての指導現場での暴力、暴力を用いた指導を「しない、させない、許さない」ことを宣言し、サッカー、そしてスポーツの持つ価値を高める努力を続けていくことを誓います。

これは単にプレーヤーを守るだけの立場に立って指導者にプレッシャーをかけようというものではありません。指導者の皆さんを今まで以上にリスペクトし、支援することで、サッカーを取り巻く環境を真の達成感と笑顔のあふれる豊かなものにしていきたいと考えています。

方針：サッカーの指導現場において、今後一切の暴力を根絶する

具体的な取り組み

1 登録指導者に対し、サッカーの指導現場において、今後一切の暴力を根絶するという意思の確認

既ライセンス取得者全員に対し、あらためて指導現場における暴力根絶の意思確認をする。

サッカー界の意思表示として、全登録指導者に向けて意思確認書を次号(2013年5月下旬発行)に同封させていただきます。ぜひご確認、同意の意思の表示をお願いします。

2 サッカーの指導現場の環境改善

①指導者の指導力アップ

指導者のあり方、価値観に関するメッセージ発信の強化、フィロソフィーの徹底。

指導者としての勉強をより徹底させ、選手の発育・発達に応じた適切な指導、内発的動機づけに基づく指導の実践につなげる。

指導者の勉強を深め、指導力を高めていくことをサポートする取り組みを強化していきます。指導現場での暴力がなぜ起こるかをあらためて考え、その原因に対して取り組むことが重要であると考えています。指導者としてのフィロソフィー、価値観の再確認、発育発達に関する知識、コミュニケーションを含む指導法に関する知識を、あらためてカリキュラムの中、あるいはリフレッシュ研修の中で強化していきます。2013年度の講習会、リフレッシュ研修会の内容から盛り込んでいきます。

②指導を受ける環境の改善

- a) 登録チームの全ての指導現場においてライセンス指導者配置の義務化検討
 - b) 登録チームの全ての指導現場において適正人数による指導の義務化検討
- ※実現に向けては、各種連盟との連携をとって進める

指導にあたる指導者の皆さんに、基本的な考え方を勉強、確認していただくことで、日々の指導のサポートをすることができると考えています。規

制のため、ふるいにかけるためという意図では全くありません。ぜひ皆さんに勉強していただけるような、現実的な方法をこちらも用意していきます。ライセンスを持たずに、長期にわたり指導をしていただいている指導者が全国にいらっしゃることも重々承知しています。多くのボランティアの皆さんに全国で指導現場にご協力いただいていることは、日本サッカーを発展させてきた力であり、宝です。それは今後も変わりません。その方たちをサポートしたい、必ずやお役に立つと信じています。また、一度受けていただくことで、今後も情報提供をはじめとした継続的なサポートができるつながりを持つことができます。勉強していただき登録指導者となっていただくことによって、共にサッカーの価値を高めていく仲間となっていただきたいと考えます。

より多くの指導者に勉強を深めていただくための十分な講習機会を増やすべく、こちらとしても枠組みの部分にも力を入れて取り組んでいきます。負担なく勉強していただけるように、講習機会の増大、簡易な講習の提供、受けやすさを配慮した提供、積極的に機会を設ける等を準備しつつ、各種連盟、委員会等とよく話し合っ

連携をとり、各所の指導者の現状に対して、いかにすれば可能となるかを確認し、丁寧に対応していくことで推進していきたいと考えています。

また、合わせて、保護者をはじめとする一般の方々にも情報を発信していくことも必要と考えています。

3 指導者登録規程の確認

登録の抹消、資格取り消しを原則とし、各ケースに応じて対応する。

<JFA公認指導者登録制度>

13. 資格の失効

以下の場合、登録が抹消され資格が取り消される。

- (1) 公認指導者としてふさわしくない行為があったと認められたとき

すでに、JFA公認指導者登録制度には上記の文言があります。これについて、「ふさわしくない行為」をこの機にさらに明言するか否かの議論をしましたが、そうすることでかえって解釈の限定や拡大につながることも考えられますので、現行の文言を保持することで確認しました。

また、今後の新規ライセンス取得の際、ライセンス更新の際に、あらためて同意していただく方向で準備を進めたいと考えています。

4 その他

① ライセンス指導者以外の一般に向けたメッセージ発信(リスペクトキャンペーンの活用)

リスペクトF.C.、4種リーグ研修会、ホームページ等を活用し、保護者をはじめとしたサッ

カーを支えていただく一般の皆さんに向けた発信を検討します。

② 暴力根絶に向けたキャンペーンの実施検討

ロゴ、リーフレット作成、ポスター作成、大会等でのキャンペーンその他、効果的に考え方を伝え、徹底していけるよう、キャンペーン実施を検討します。

③ Child Protection Policy導入の検討

(子どもの安全確保指針。特にスポーツの場における安全確保に関して導入に向けての準備) 海外では既に取り入れられているものです。指導現場での暴力に限らず、広範にわたる子どもの保護を扱うものです。我々は特にスポーツ、サッカーの現場での事例を研究し、現代の日本の社会に適合したポリシーの導入を検討します。

④ 対応セクション/部会設置検討等

さまざまなケースへの対応、効果的なプロモーション等々、JFA全体として対応すべき事項が出てくるため、対応セクションを設置することを検討します。

基本姿勢

これらの具体的な取り組みを通じて、理想を追求し指導環境を改善することが暴力根絶、ひいてはスポーツ指導の価値の向上、一人一人の選手がそれぞれに適したより良い指導を受けることにつながるものであると強く考えます。

JFAとしてはそのための場の提供や支援、得られる価値の大きさについてのプロモーションの努力を惜しみません。関わる全ての皆さんと協力し、団結してより良い指導環境をつくっていきたく考えます。

スポーツの本質は、楽しみであり解放であり自発に基づくものです。サッカーのさらなる発展のため、指導者はそういったプレーヤーたち以上に真摯(しんし)に取り組みを続けることが大切です。プレーヤーたちがサッカーを楽しみながら向上していくこと、内的動機づけに基づき、挑戦していく心に火をつけること、そしてそれを支援することも指導者の重要な使命なのです。

我々自身も自ら気を引き締め、全国で子どもたちの指導にあたっておられる指導者の皆さんと互いに信頼し合い、協力し、団結してより良い指導環境をつくっていきたく考えます。指導者の皆さんを今まで以上に支援することで、ぜひ関わる全員で力を合わせ、日本のサッカーのあらゆる指導現場を、真の達成感と笑顔のあふれる豊かなものにしていきたく思います。

以上を指針として、

- ・2013年2月16日～17日の全国技術委員長会議にて方向性の提示(地域分科会にてディスカッション)
- ・技術委員会(育成部会、指導者養成部会)から3月のJFA理事会へ方向性の提示
- ・テクニカルニュースで方向性発信
- ・各連盟、FA、各種大会部会等との調整
- ・都度、JFA理事会にて決定・実施

指導現場での暴力行為はなぜ起こるか

1 指導者の感情

サッカーに関係のないことでの感情をぶつける(家庭や職場でのトラブルによる感情を持ち込む等)

→これは論外であると言わざるを得ません。

2 指導したことを選手が実際にできない

これについては以下の要因が考えられます。

- ① 指導者の指導力不足 → 外的動機づけで指導してしまう。
- ② 指導者のコミュニケーション能力不足
- ③ 選手の能力・段階に見合わない指導

3 選手側の態度・姿勢等(選手が反抗的な態度を表明、集中していない等)

これについては以下の要因が考えられます。

- ① 一指導者に対する選手数が多すぎる場合

がある

向き合える人数を超え、適切な指導がしきれない

内的動機を持たせて集中させ、緊張感を持って練習・試合を行うことができない

→選手数に見合う複数指導者の配置

複数チームでのリーグ参加を促進 → 全選手に適切なプレー機会、指導を受ける機会の保障

一人一人の目標を持たせる

② 指導者の指導力不足

→指導者の指導力を上げる

4 全国大会に出なければならぬ、好成績を収めなければならぬというプレッシャー

→Players Firstの観点からも、一人一人の選手の段階・レベルに見合った指導が必要となり、個人・チームのレベルを上げることが目

的となるべきである。

→価値観・指導力アップの徹底 → 指導者養成で徹底

- ・一人一人を将来に向けて大きく育てる指導
- ・国内の勝った負けたではなく、世界を目指す選手の指導
- ・発育発達、レベルに応じた指導
- ・チームを発展させる指導

5 選手同士、先輩後輩の関係による悪しき習慣もある

6 日本人の中に、選手、保護者の中にも体罰を寛容に受け止める精神風土がある

→今回を契機に、サッカーから率先してスポーツ界、社会に発信